

第2回 第2次上牧町地域福祉計画及び  
地域福祉活動計画策定委員会

日時：令和7年10月31日（金）14：00～

場所：2000 年会館

1 開会

事務局：それでは定刻となりましたので、只今から第2回第2次上牧町地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定委員会を開催いたします。本日は、天候の悪い中、また、ご多忙中にも関わらず、貴重なお時間を割いてお集まりいただき、誠にありがとうございます。本委員会にご出席いただき、心よりお礼申し上げます。私は本日の進行を務めさせていただきます、福祉課の和田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本委員会は上牧町暮らしづくり基本条例第33条第2号の規定によりまして、原則として公開形式となっております。また、上牧町地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定委員会規則第5条第2項により、委員の過半数をもって開催することとなっております。本日の出席者数は16名で、定足数に達しているため、本日の委員会が成立していることをご報告させていただきます。議事に入る前に、資料のご確認をお願いいたします。まず、事前にお渡しした資料とは別に机上に配布しております「ニュータウン①グループ」の資料でございますが、先にお送りしております会議の報告書の追加資料となります。それでは事前にお送りしております資料でございますが、まずは本会議の「次第」でございます。続きまして、「地域福祉に関するアンケート調査 調査結果報告書」となります。続きまして、先ほども出ました「上牧町地域福祉に関する地区会議報告書」になります。続きまして、「関係団体へのヒアリングの結果について」、「地域福祉庁内検討会議第1回報告について」、「第2次上牧町地域福祉計画及び地域福祉活動計画の体系・骨子(案)」でございます。過不足等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。また何かあれば事務局までお申しつけください。では、これより議事進行の方に移らせていただきたいと思います。上牧町地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定委員会規則第5条第1項の規定により会議の議長は委員長にお願いしたいと存じます。それでは委員長よろしくお願いいたします。

委員長：みなさん、こんにちは。今日2回目ということで、この計画策定にあたり、さまざまな声を聞く機会を我々作ってきました。資料の紹介にもありましたが、アンケートやヒアリングもあり、このような状況だったのかということが、ここに入っている声が次の計画の課題になっていくと思うため、このあたりについて報告を受けながら、最後5番目に大きい物がありますが、今回の計画の体系・骨子の案ということで、それを踏まえ事務局の方でご検討いただいている議題があります。それについて報告をうけながら全体の枠組みを確認する機会と思っています。よろしくお願いいたします。そして報告が多いため、しっかり消化しながらよろしくお願いいたします。では、さっそく議事に入っていきます。まず一つ目、地域福祉に関するアンケート調査ということで、分厚目の資料です。こちらの方、事務局から、説明をよろしくお願いいたします。

2 議事

#### ① 地域福祉に関するアンケート調査

事務局：議事1、地域福祉に関するアンケート調査結果報告書について、説明をさせていただきます。まず、1ページ目、「調査の概要」でございます。住民アンケート調査は本計画の基礎資料とするため8月下旬から9月12日の間で、上牧町にお住いの18歳以上の方から無作為抽出による2,000人の方に対して郵送による配布、回収及びウェブによる回収にて実施し、回収状況は有効回収数1,095人、回収率は54.8%でございました。令和2年度の調査では56.5%だったため、ほぼ同程度の回答をいただくことができました。回収数1,095人のうち郵送回答は829人、ウェブによる回答は266人という結果になりました。それでは、2ページ目以降が調査結果でございます。今回もアンケート回答者の属性ですが、住んでいる地域では、米山台に住まれている方がもっとも多く、続いて葛城台、片岡台3丁目となりました。性別では、男性が41.2%、女性が53.6%、年齢については、70歳代の割合が22.6%ともっとも高く、60歳代、50歳代となりました。続きまして、4ページ目、(6)上牧町での居住年数は、70%以上が20年以上、(8)福祉との関わり方では、関わりがないと答えている方が73.5%と最も高くなりました。今回の調査結果、アンケート回答者の属性はこのような結果になっております。今回のアンケートでは、大きく全20問で実施し、比較できるように令和2年度に実施したアンケート内容を概ね継承させていただきました。5ページ目からその結果をお示ししておりますが、少し抜粋してご報告させていただきます。6ページ目、日常生活に関する困りごとですが、令和2年度と比較し経済的な状況、あと、自分や家族の介護の割合の状況でございます。続きまして10ページ目、問4「地域との繋がりがあると思うか」ですが、「つながりがあると思う」の割合が50.6%、「つながりがないと思う」が25.6%となっており、79歳まで年代が上がるほど「つながりがあると思う」の割合が高い傾向でございました。続きまして13ページ、問7「お住まいの地域での満足度」ですが、「オ、手助けが必要な世帯の見守りや目配り」、「ケ、地域での悩み事が相談できる場所」については、「わからない」という回答が多く、「満足」、「まあ満足」の割合が低い傾向であり、こちらは前回と変化はございませんでした。続きまして、23ページ、問8「地域としての役割や地域の人が協力して行うのに必要なこと」として、前回同様、「災害や防災対策」がもっとも多く、次いで、「安全や治安への取り組み」、「高齢者への支援」となりました。続きまして25ページ、問9では、「地域の人が協力して行うことについて、あなた自身はどのような参加や手助けができますか」という設問については、「災害や防災対策」がもっとも多く、次いで、「ご近所同士のつながりづくり」となり、前回の結果と比較して「日常生活のお手伝い」、「見守り活動」の割合が減少しております。27ページから32ページは、「参加や手助けが難しい理由」を自由記述での結果でございますが、「仕事で忙しい」や「高齢で体が不自由」などの理由が多く散見されております。続きまして、34ページでございます。「福祉に関心がある」と回答した方の関心のある分野についての結果でございますが、「高齢者に関する福祉」の割合が、73.4%ともっとも高く、今回のアンケート調査で新たに追加した「空き家やゴミ屋敷の問題に関する福祉」については、21.5%となりました。また、35ページでは、地域の福祉を有意義化するために優先的に行うべきこととしては、前回の調査結果と大きな変化は見られず、福祉に関する情報の提供が最も高くなりました。そして39ページでは、福祉のサービスの情報入手先は、まちの広報、ホームページ、窓口が最も高くなっており、年代別では、年代が下がるほどインターネット、年代が上がるほど自治会の対話の割合が多くなっております。また、40ページ、問14では今回新たに「あなたは家族の中で引きこもりの状態のある方はいらっしゃいますか」という設問を追加しました。その結果は、「います」の割合が3.8%、およそ26世帯に1軒というような結果となりました。全国的な調査と比較させてい

ただくと、半年以上の引きこもりの方で15歳から64歳までという国の調査と比較させていただくと、上牧町では今回のアンケート結果で2.3%、一方、平成27年、平成30年で行われた国の調査結果では、およそ1.5%ということで、上牧町のひきこもりの割合は、全国平均よりも少し高かったと感じております。ひきこもりの状態にある方の年齢は60歳以上が19%と一番多く、続いて20歳未満、50歳代が16.7%という結果になりました。また、引きこもりの状態の期間については、10年以上の割合が38.1%ともっとも高くなっております。また、引きこもり支援について、もっとも必要だと思われるものが「無料で相談できる」がもっとも高く、次いで「就労に関する支援を行う」となりました。続きまして46ページ、「地震や災害に対して、どのような備えをしているか」の説明でしたが、前回の調査結果と比べ、「食料や水などの備蓄、非常持出品の準備」の回答の割合が増加しておりました。50ページでは、「今後も上牧町住み続けたいと思いますか」という質問ですが、「住み続けたい」の割合が88.3%で前回の調査結果と比較し、3.5ポイント高くなりました。年齢別では、50歳代から年代が上がるほど「住み続けたい」の割合が多くなっています。51ページでは、「上牧町外に移りたい」と回答した方の理由について自由記述を掲載しています。いろいろなご意見をいただいておりますが、移動手段・交通アクセスについてのご意見が多く散見されると感じております。最後に54ページ以降ですが、こちらは地域福祉に関するご意見・ご要望として自由記述をいただいたものでございます。地域福祉に関する広い内容からより細かな具体的なものまで、住民の方から貴重なご意見、ご要望をいただくことができました。災害や介護などの不安や、福祉の情報発信、相談窓口の充実、地域で相互に支え合える環境づくりへの取り組みを求める声など見受けられました。そして、ご自身は障がいを持っているが、地域福祉のお役に立つことがあれば、できる範囲で協力したいという、ありがたい言葉もありました。このアンケートを通じて見えてきた現状や課題を踏まえて、計画策定の基礎資料とし、参考にいただき、委員の皆さまには、ご利用していただきたく、今回の調査結果のご報告とさせていただきます。それでは簡単ではございますが、報告は以上です。

委員長：はい、ありがとうございました。アンケートは郵送とウェブということで1,095人の方から回答をいただいた結果となっております。では、質問や見ていただいたの所感、高くなっているところや低いなど少し確認をしたいと思っております。いかがでしょうか。実感されていることと、アンケートの結果の差があるかと思うのです。いかがでしょうか。アンケートの結果の分で今回からウェブでしたか、実際に1,000件の中で、829件が郵送で回収、200以上がウェブですが、実感としてはそのくらいの割合かという感じですか、ウェブが多いなという感じですか。感覚的なことですが、回収率は変わっていないです。

事務局：そうです、前回の回収率が非常に高かったという印象ですが、今回ウェブの回収ということで少しでもそれに近づくか、少し多い回収率を目指したのですが、同程度の回収率になったということで、少しよかったというようには思っております。実は、アンケート期間については、非常に広く取ったわけではなく2週間から3週間程の長くない期間で、これだけのアンケートを書いて、自由記述も多くいただき、ありがたいという印象でございます。ウェブの効果ということは、これから考えていこうと思っております。

委員長：ありがとうございます。今回、大阪の泉佐野市の地域福祉計画・活動計画にも関わっているの

ですが、今回すべてウェブです、予算の関係で。予算を削られてしまったのです。担当の部署の人は、郵送と両方で3,000件程やりたかったが、結果的にウェブのみになってしまったそうです。郵送代がかからないためということですが、結果がどのようになるのかと思います。予算もあり、難しさもありますが、自由記述を本当にたくさん書いてもらっているということが私の印象で、ウェブだとスマホやパソコンが得意な方は手で書くより早いというよさもあり、手書きだと自由記述も面倒で書かないということもあり、ウェブはそのようなよさもあります。じっくり考えて、書きたいという場合は郵送のよさもあるため、おそらく今後併用していくような形が出てくるのではないかと思います。このあたりも、ここで聞きたかったことがとれなくなってしまうことが出てくるといけないため、しっかり分析ができるとよいと思いました。他のみなさん、いかがでしょうか。せっかくなので、ご意見をいただきたいと思います。

山田委員：さきほど委員長もおっしゃっていたウェブから紙媒介での回答ですが、だいたい去年か一昨年か忘れましたが3割程がウェブ回答で、7割程が紙媒体の回収という話をどこかで聞いたことがあるのですが、それが標準かどうかわかりませんが、その程度になると思っているのです。今回もだいたい3割弱ということで、これを全てウェブにしてしまった場合、果たして回収率がもっと落ちるのかどうか、あるいは、回答された方の年齢層にバイアスがかかってしまい偏ったデータしか得られないような、そのあたりも比べてみてもよいのかと思うのです。泉佐野市では何年か前と比べ年齢層の偏りはなかったのでしょうか。高齢者もウェブで回答してくれるということであれば、今後使うことができると思うのですが、そのあたりが実験と言いますか、広く意見を聞かないと意味がないため、そこを知りたいと思いました。

委員長：ありがとうございます。泉佐野は結果が出てないため、蓋を開けてみないとわからないのですが、私たちの懸念事項として、すぐQRコードでやったださる世代は増えるかもしれないが、どのようにすればよいかわからないという、年齢だけではなく、苦手な方はできないのではないかという話が出ていて、アンケートをする前からバイアスはかかるだろうということを想定しています。結果、蓋を開けてみて、私たちが思っているほど世代の偏りが無いということであれば、それも一つの使い方としてあると思います。ただ、委員の方や私たちもそうですが、それに振り切ってよいのかという話も出ています。お金がないと言われ、振り切ったそうです。これは多分、20年後あたりになってくると、少し変わってくると思うのです。ちょうど過渡期だと思います。振り切ることはリスクが高いと思います。また結果は皆さんにお返しができるとういと思います。ありがとうございます。他はいかがでしょう。中身も含めて、はい、どうぞ。

西川委員：「上牧町に住み続けたい」が88.3%ということで、疑いたくなるような数字ですが、ご近所の方でも車を返上し、やはり自分で買いに行きたいが近所にないため、バスに乗ってどうしても自分でほしい物は自分で買いたいのです。したがって、年代によって違うのではないかと思います。元気でがんばっておられる方も、40年、50年と生活し続けて一人世帯、一人住まいなど多いのですが、そのような方が結構、塗装業者のターゲットにされて、電話や訪問などいろいろされているのです。そこで改めて後の家を塗装しても継ぐ人がいないため、塗装しても仕方がないのです。そのようないろいろな問題や悩みを、今うずうずしていると言う人が結構高齢者は多いため、このあたりも全国的には塗装するならば補助があると言っていますが、上牧町の実態の、この88.3%という

ことは、周りにそのような人が多い中で、本当にそうなのかと思ったのです。ご回答、よろしくお願いします。

委員長：はい、ありがとうございます。どうですか。50 ページ、下のところに年代別にわかれています。できれば町外に移りたいという人が、若い 29 歳までの人たちの 23%程、出たいという話が一方でありつつ、中間層で今所帯を持ち、子育てをして、落ち着いている人たち、この年代別では、少し見えないと思いますが、実感として違うのではないかということです。そのあたり、皆さんいかがですか。お答えいただくのは難しいですか。今の空き家の話が出ていましたが、売りにくてもなかなか売れないというような話など、今回のアンケートで 34 ページのところ、老朽の空き屋の話など、前回のアンケートにはなかったのですが、今回初めて聞いてみようということで、令和 2 年の結果はないのですが、21.5%ということで一定の関心があると今の話でいうと結びついているのではないかという気がします。皆さんが住みたいというよりも、そのようなことなどを一方で抱えながら、お金があれば便利な場所、まち中の駅近など、なかなかそのようなわけにはいかないということがあるため、住みたい、移りたいと思っけていても、移れないし仕方がないと思っけている人たちも入っけているという気もします。いかがでしょう。そのあたり、皆さんどうですか。違う見え方や、そのような声を聞っけているなどお願いします。まず、事務局からあればいかがでしょう。

西川委員：今、言っけていることは、私も含めての話です。どなたかよいご意見があれば、よろしくお願いします。

竹原委員：すみません、若い方が出っけていきたいと考っけていて、生活していく上で、大阪は職場もあり若い人が活動しやすく便利で、やはり、私たちの年齢の人も慣れ親しんで住んでるが、私の住んでるところは非常に不便で車を返上した後どのように生活をすればよいか、悩みがあるのですが、その中でどうして上牧町でうまくいっけてるのか我々、主婦の井戸端会議でそのように感じます。

委員長：望めば便利なところやよいところ、空気のよいところなど、いろいろなこと言っけてますが、今のところどどのように暮らすかという時に、本当にそれが難しければ移らざるを得ないということになります。そうではなく、例えば、買っけて物の話や移動の話など町外に移りたいのはなぜですかと聞くと移動の話が結構多いです。おそらく全年齢と書っけているため、どの方がどれかわからないのですが、この中で言っけてると、免許の話などを含めて、手放してしまっけてた時にアクセスが保証できるようなまちであれば、いろいろ不便なことなどあるかもしれないが、ここで生きていける、生活できるというようなまちの中で住んでいけるのかどうかということが多分問っけてられているのではないかと考っけてるのです。したがって、委員会でもありましたが、買っけて物や生活の中で必要な物など、バスを作りなさいということだけではないと思っけてるのです。そのような意見が多いのです。でも駅が無いなど、駅は作れないため無理ですが、でも、移動をどのようにするか、生活、例えば病院に行くという移動をどのようにするか、買っけて物をどこでするかを含めて、そのあたりのことは、おそらく地域計画の中でもハードの話とは言っけて切れませんが、やはりそれをどのようにしていくのかということ、一つポイントではないかと思っけています。ありがとうございます。

事務局：すみません、事務局でございます。先ほどの 50 ページの年代別のアンケート結果、多くなっけて

いるということでございます。わたくしども個別の自由記述のアンケートも細かくまとめさせていただいております。上牧町の行政担当としましては、人口減少や空き家対策、交通手段といったことを、今後深く考えていかないと、このままではどうにもならないという状況、人口も徐々に減っている状況でございます。なるべくこの中にはさらに細かい気持ちの動きがあるかと思うため、傾けながら行政担当として検討していきたいと思っております。

副委員長：若い方が職業の関係で戻ってこないとき、親が住んでいるときはよいが、親が亡くなると空き家になった、これが現状です。共同墓地の管理者をさせてもらっているのですが、「墓じまい」が多かったです。4年間で28件、どのような方が多かったかという、子どもが外に出て親だけが残る「墓じまい」をしてしまう、そこに住んでいても、墓地を買っていたところも墓地を返却という方もあります。それとこちらに住んでいないのですが、この地域に関係ある人、例えば私の姉や兄弟など共同墓地にするから墓所を買います。将来はそのお墓に入るのかと思っていた人が入らないため、それを返却、「墓じまい」です。だんだん「墓じまい」に関してでも、そのように減っていくのです。やはりその流れで、交通が不便など町電、公共交通の検討委員会が立ち上げられ、交通の不便さをなくすためなど、そのようなこともやってくれる予定です。そこに期待したいと思っております。

委員長：ありがとうございます。お墓の話も出てきました。今の話、お墓掃除に行けない、行きたいが、足が不自由で行けない、しかし気になるし、放置し周りの人に汚くしていると思われるのもいやだという方のために、お墓の掃除を手伝い、綺麗にして写真を撮り、動画で見ることが出来る活動もありますが、「墓じまい」のことも含めて、多分、買物と同じで暮らしをどこで作っていくのかという話です。そこについて、お墓の話は出てこなかったですが、その話も含めてあると思っております。4年で28件は多いです。その後、どこに行くのかという気もしますが、そのようなことを含めてあると思っております。ありがとうございます。他にございますか。

植村委員：今回、アンケートを見せていただいて、ひきこもりの方がわりといらっしゃるということが出てきました。5ページ、6ページの方で言うと、資料にも載せているのですが、自分や家族の介護や、家事などの移動や力仕事、まちの高齢化というか、年配の方が増えていると思うのですが、その一方で経済的な状況というのが、コロナの真っ盛りの令和2年と比べて1.5倍になっています。年齢層別でみると働き盛りの人45%、約半分程の人が挙げているということは大きいと思っております。一方で34ページを見て、関心がある領域というところでは、就労や生活に困難を抱えている人に関する福祉に対する関心は逆に薄れているということは、名豊さん、先生、他の市町村など含めて、どう変化しているかということをお教えできればと思っております。

委員長：ありがとうございます。はじめの日常生活の困りごとのようなことと、関心のところのミスマッチも含めて、他の自治体のアンケートなどで、そのような状況があるのかどうかのご意見でした。

名豊：今、データがないため、確かなことは言えないのですが、やはり困りごとについては、経済的な状況といったところでは、やはり他市町村も上のほうに来ているかというところはあるかと思っております。ただ、やはり前回調査と比べて特異的な形で上がってきていると思っております。今、

データがないため、社内に戻り、県内や近隣の状況を確認させていただきたいと思います。

委員長：ありがとうございます。7ページのところの経済的な状況というところはかなりき面にでて  
いると思います。全国的なことを含めて経済的な状況かなり厳しいです。30歳代、40歳代、50歳  
代ですと、例えば、家庭を持ってお子さんがいると、それを含めて生活をしていくという事の難し  
さを非常に感じていると思われま。生活が厳しいということは同じような状況ではないのかと思  
います。一方で、関心が福祉になった時、自分自身が結構しんどい状況で、経済的なところにも関  
心ありますとつながるもあるが、自分のことがあるため、自分自身のことも大変なので、人のこと  
まで余裕が持てないということもあり、もしかすると問いかけの仕方によってアンケートの結果が  
変わったのではないかと思います。自分自身も含めて今どのあたりの関心を持っていますかとい  
うと、自分の生活の状況を含めて経済的な話になりますが、まったく知らない人たちの経済的な状  
況の不安、空き家の話もそうですが、空き家はたくさんあるなど自分のことと一致しないと、チェ  
ックが入らないのではないかと思います。下がっているということが不思議でもあります。見方  
によればもしかすると、あがっていた項目ではないかと思っています。経済的なことというのは、単  
純にお米券をくればよいという話ではなく、社会構造全体の課題でもありますし、かなり子育て  
をしている世代のしんどさというところ上がってきているため、子育て中のお父さんとお母さんが  
少しホッとできる場、そのようなことの声が出せる場など今もあると思いますが、きちんと知らさ  
れていくということもあり、様々なことと結びつくのではないかと思うため、このあたりの7ペ  
ージで上がっているような、経済的な状況が高いということをどのように捉えられているかとい  
うことについて、次の計画の中でも少し考えていく必要があると思います。ありがとうございます。引  
きこもりの話も少し出ていて、今回ということで、先ほどの事務局からの説明もありましたが、単  
純に比較はできないのですが、全国的にいうと1.5%程のところは2.3%ということで、それだけ  
で比較すると多いと感じがします。ひきこもりのアンケートや調査というのは、「いますか」と聞いて  
も「いる」と書かない人もいますし、家族の中で引きこもりとっていない人たちもいて、はた  
から見ると結構しんどい状況だということもあるし、無回答の方もいるから、白になっている10ペ  
ージ、このあたりの4.7%、おそらくこのようなテーマは町民の皆さんの60%がこのような状態、こ  
の課題、関心を持っていますとなると、皆さん取り組みやすいです、皆さんのテーマですとい  
うのです。このような2.3%や3点何パーセントですと100人中3人ですとなったときに、ついつい私  
らとは関係ない話で、彼ら特異な少数派の話なので全体で考えることはどうなのかと、ずっと端  
に追いやられていくようなテーマです。これというのは、例えば全国的な調査でいうと、引きこ  
もりは不登校のイメージがあり、子どもたちの話だと言っているのですが、実は15歳から64歳  
の層がかなり多く、働きながら引きこもっている状態になって、仕事を辞めざるを得ないよ  
うないろいろな状況に全体的な年齢層に蔓延している、あと高齢者の方たちも多いです。外に  
ほとんど出なくなってしまう、ずっと家にいる、それを引きこもりだと思っていなくて社会  
参加する機会が減っている状態です。実はこの数値、見えない暮らしの中で起きてい  
るような状況を指し示しているのではないかと思うため、引きこもりの方の対策をどう  
しようかという話から入るかもしれないが、いろいろな人が参加できる、参画できる、  
このようになった時に少々しんどいと言えるような、引きこもりの方以外も含めて、  
そのような中の計画で、施策としてどのように捉えていくのかということ  
を考えていかなければなりません。このあたりのアンケートの結果も少し丁寧に見て  
おくとういことだと思います。人数が少なく、年代別になるとパーセンテージが読  
めないため、結果を書き

ないですが、この 38%いますということと、4.7%のところには私たちは目を向けなければならないと思いました。他にも実はたくさんあって、自由記述のところ、本当にたくさん回答があります。厳しいこともたくさん書かれています。自由に書いている、自由なまちだということが見えますが、一方で地域福祉の話になると手のひらを返したように、非常に頑張っています、というような声もあり、経済的な話や暮らしがうまくいかないなどについて、苛立ちやしんどさもあり、愚痴も含めて言いたいこともあります。一方で地域福祉に関していうと、参加できないということ、できるならやりたい、やりますという声もあるため、どちらがよいというのではなく、両面あるということ、私たちは知るということと、やりたいという人たちの参加、それを実行できる場を作っていくことを考えなければなりません。自由記述のところは文章ですが、この中に入っていることを丁寧にピックアップしていかなければならないと思うため、事務局には改めて見ていただければよいと思います。よろしいでしょうか。また後ほど項目の中でアンケートのことについてあればご意見いただければと思います。では、2つ目のところに行きたいと思います。

## ② 地域福祉に関する地区会議の報告書について

委員長：つづきまして地域福祉に関する地区会議の報告書について、薄手のものです。事務局の方からよろしくお願いいたします。

事務局：地域福祉に関する地区会議の報告をさせていただきたいと思います。先ほど先生がおっしゃった薄い報告書と追加の報告書になります。地区会議においては、目的としては、それぞれ地域性の違う立場の皆さんが暮らしやすい地域にするための方法を一緒に考えるために地区会議を開催させていただきました。実施のテーマが「テーマ①どんなことができる?」、「私たちの地域がこのようになったらいいな」と想像しながら、どのようなことができるのか、どのような人たちとできるのかということ、1時間半お話をさせていただきました。参加者のメンバーですが、2枚目に書いてありますが、ニュータウン1のグループと、旧村・ニュータウン2のグループ、もともとの資料についていた高校生、大学生の3グループにわかれて話をさせていただきました。ニュータウンの方の中でお話があった内容としましては、やはり、自分自身が高齢になっても愛着がある住み慣れた地域で気軽に長く暮らせるような仕組みづくりをしていきたいということが非常に強く住民の声でありました。実際、こちらの地域でふれあい喫茶などされているのですが、男性が参加しやすいという意味でふれあいの酒場、お酒を飲む場を作っていきたいとお話されていました。もう一つは、ニュータウンではいろいろなイベントをしているのですが、なかなか子どもの参加が見込なくて。子どもを中心に参加できるイベントを開いていきたいとお話がありました。それはどのような人たちとできるのかということでは、2枚目の裏側、定年退職された若手シニアの方、そちらのデータのふたつは小地域ネットワークの活動をされているため、そのメンバーでできるかと、あと地域でされているソフトボールクラブで子どもたちを呼んでできるのではないかと話がありました。ニュータウン、ふたつを変更させていただきたいのですが、追加の資料3枚目、旧村・ニュータウン2のグループの話では、登下校の子どもたちの見守りを続けたいということ強く話されていたのですが、こちらの理由としては、どんどん高齢者を頼ってほしい、もっと私たちを使ってほしいという声がありまして、もしかしたら高齢の方に負担になっているのではないかと若いお母さんたちは思っていますが、そうではなく、私たちはできるということ、もっと地域の役に立ちたいとおっしゃっていました。もう一つの地域では、このように上牧町内の一つの町においての

計画を立てていますが、町全体の大きな計画ではなく、各地区でどのようにするのかという考え場を設けて、そこでの計画も必要ではないのかという話もありました。外国人の交流ですが、外国人の方の住んでいる方がより多く見られるようになってきたため、そこでどのような人たちとできるのかということが、顔見知りを作ることが必要、外国の人と交流ができることがよいため、町外で外国人家族の支援をしていただいているボランティア団体さんと一緒に、外国の人たちと一緒にイベントをする、その地域の食事を作るなど、交流したいという話がありました。こちらも同じで、子どもと一緒に参加できるイベントがなかなかないため、子ども中心の活動をしたいというお話が上がりました。もともとの資料についている報告書の中に写真つきのものがありますが、こちらの2ページにあたります。こちらの方から高校生、大学生のグループで話をしていただいた内容ですが、地域の選別ということが少し難しかったことと、学校に行っている子どもたちなので、なかなか地域をどのようにしていこうかという話まではしづらということがあったため、テーマを変えてみんなで協議させていただきました。今、高校生と大学生がどんなことを考えているのかということを見させてもらったところ、学校でボランティア活動していきましようという学校からの勧めのようなことがあるようですが、その情報元がどこにあるのかわからないと高校生と大学生の話でありました。一応、上牧町、社会福祉協議会も広報紙を作っていますし、SNSで発信はしていますが、そもそも広報誌を見ていないし、SNSも自分の興味があれば、キーワード打って選択していけるが、そのようなワードがなければ検索もできないという話をしていました。あとは高校生の話なのですが、外国人との交流をしたいということで、日本語学校、日本語の教室のボランティアをしたいと思ったが、上牧町には日本語教室がなく上牧町から王寺に行ってボランティアをしているという話もありました。その中のメンバーの地域には、公民館がないところがあり、そもそも公民館は何をするところかわからないが、公民館はあったほうがよいという話も出ていました。イベントや活動、地域の中でいろいろなものがあると思うのですが、自分たちに興味があるからそこに参加するのではなく、そこに行く友だちがいるかどうか、誘ってくれる子がいるかどうかによって、自分に興味がなくとも、参加したいという気持ちになると言われていました。あとは、高校生と大学生の目線から見ると、学校に行っていて、地域との関りはないため、繋がっていても継続は出来ないし、最終的な繋がりはなくても自分たちの生活はできているという話が出ていました。これらの話を受けた上で、子ども中心の活動をしたいということと、参加のハードルを下げていきたいということがあり、そのような仕組みづくりをしていかなければならないという話になり、今回の地区会議は終了とさせていただきます。以上で、地区会議の報告を終わります。

委員長：はい、地区会議ということで、エリアをわけて開催していただくということで、高校生、大学生にも、声を聞く機会をつくったという報告です。何かご質問、ご意見よろしいでしょうか。人数が少ないため、少なくとも、お越しいただいた方は、家の話もありましたが、住み慣れた地域で暮らし続け、住み続けていけるようなまちをどのようにしようかと考え、いろいろな話ができるのではないかと思います。言われるような方法を、少し考えていければよいと思います。外国人との交流の話も出ましたが、日本人でも、外国人でも、知らない人がいると不安です。顔見知りになっている、名前がわかっている、話ができるような関係を個別的に作るということも大事で、地域の中でそのようなものを作っていくということも大事なのかと思っています。いかがでしょうか。彼らの生活範囲はここだけではなく、高校に行けば高校のエリアが広がり、大学生になれば、活動範囲が広くなり、この中でという話にはなかなかなく、仕事をしている方もそうですが、ま

ちの中のことでよくわからないことがたくさんあるという事を言っていただき、彼ら若者が無関心かという、そうではなく知らないから教えてほしい、公民館は何をすところですかと素朴な声が出て、聞くと大事な場所で、あったほうがよいという話が出てくるかもしれないのです。若者と出会う機会を作っていくと、いろいろなきっかけや活動が増えるのではないかという気がしました。可能性はたくさんあると聞いていて思いました。

副委員長：すみません、先ほど、ニュータウン2番目のグループの中で、登下校の見守りということですが。登校は毎朝なのです。下校は月1回、青パトは月2回に減らしましたが、代わりがないためやりづらいです。朝7時半から8時まで拘束され、それを毎日だと、例えば、どこかに行こうと思っても、その時間をさけ、旅行に行くのも土日しか行けないそのような状態です。登下校時ボランティアがもっと増えたらと思います。やっている人がだんだん高齢になっています。参加者ゼロです。全国市町村の高齢者の現状を報告させていただきます。

委員長：ありがとうございます。青パトというのは車で登下校。

副委員長：防犯を兼ねてです。

委員長：防犯も兼ねてですね。

事務局：すみません、事務局です。ありがとうございます。副委員長のいただいたお話、非常にわかりました。地区によって、だいぶん、ばらつきもありボランティアさんに立っていただいて、生きがいののでと言われ、逆に一年生の黄色い帽子が見当たらないとも聞いています。皆様のご協力での仕組みになるかと思えます。これからもっと長く続けていけるような仕組みを作っていければと思っております。

委員長：ありがとうございます。私の町のやり方、少し変えたりしています。約束しても、来ないため、地域の方が毎日何人かでされています。その人たちがいるから子育て中のお父さん、お母さんはこなかないため、このやり方だとお互いストレスを感じます。そのため、回数をシェアし、回数が減ったが、全体でできるような方法を試行錯誤しているそうです。おそらく仲間を増やしていかないと人ごとでたのみますというのはよくないと思うため、これなら出来る、この時間なら出来るなど、一緒にやることです。登下校の話はされていましたが、ボランティア活動、地域活動も今の時代は難しく、働きながらということは、難しいと自由記述にも書いてありましたが、これ以上時間がないとのことです。いろいろな形の参加方法を考えていく必要があります。先ほど登下校のご意見もいただきながら、そのあたりも地域の中で、継続していく、維持していく方法を考えていかないと、今のまま、そのままずっとあと10年間頑張ってくださいとはなかなかならないと思うため、そのあたり担い手の話も含めて示していかないといけないと思います。

副委員長：南上牧は道が狭く、くによくや曲がっているということで、普通の朝の登下校の見守りは、交差点で立っておられる方、角、角に5人、角に立ちます。この時間帯に車がスピードを出すため、警察の方をお願いして、月1回くらいはパトロールしてもらいたいぶん違います。普通のところと

少々違います。道も 30 キロの制限もできない、警察に話しても大丈夫と思われるが、私たちから見ると、30 キロは危ないと思います。

委員長：はい。

山崎委員：すみません、私毎朝、登校時、集団で学校まで送っているのですが、だんだん卒業してしまうと、子どもが少なくなるのです。お母さんの方から「見守りたい、気を使うわ」という声も聞いていますが、奈良市であった事件のとき、私は教育現場にいたため、あのようなことになることを考えると、いくら人数が少なくても私は行きますと言っているのですが、やはり用事があるときもあり、旅行も行きたいし、そのようなときは、代わってもらえる人が一人ぐらいいると助かると思います。帰りは、第三小学校の方が立っておられます。学校からは、低学年と高学年の二軍にわかれて帰ってきます。そうすると大変です。学校側としては、仕方がないことと思うのです。

委員長：ありがとうございます。実際にされていると一緒にやる仲間が少しいるとよいのですが。しかも大事だと思っているし、できたら続けたいと思っておられることと、親御さんは、申し訳ないと気を遣われるということもあるが、そのあたりの気持ちもわかります。

山崎委員：やはり事件を経験していると、命を守ってあげたいです。

委員長：この福祉の活動はよい活動ですが、よいから皆さんがんばってやってくださいということだけでは維持できないと思います。したがって、大事だと思うが、やっている人だけで考えてくださいというものでもないのです。そのことと登下校の話もそうですし、子どもたちのことを、おそらく高齢者の方たちはどのようにしていこうかと、大事なことです。このあたりは担い手の話も含めて考えていくべきだと思います。ありがとうございます。

### ③ 関係団体ヒアリングについて

委員長：すみません、時間がおしてきています。次に関係団体ヒアリングということで、こちらの説明をよろしくお願いします。

事務局：続いて関係団体のヒアリングについてご報告させていただきます。資料の方、1枚目【活動の担い手・後継者に関する課題】ということで、まず、シルバークラブ（友愛活動）の方から、新メンバーが 80 歳代の方ばかりで、自らが見守られる方の対象となってしまっています。運営や活動し続けることが難しいという話です。その下の小地域ネットワーク（小ネット）の方ですが、定年後にも仕事する人が増えてしまって、ボランティアをする意欲が感じられません。男性が少なく、女性が多いです。若い人をどう勧誘していったらよいのかが課題です。その下の民生委員の方ではなり手がなかなかいないということと、制限年齢が 75 歳超えても再任になる委員が増えてきています。その下の町ボランティア（町ボ連）の方ですが、役員決めの際に高齢化と役が回ってくる回数が多くなるため、なかなか毎回そのあたりで困っているということでした。2枚目【見守り・相談・交流活動に関する課題と工夫】について、シルバークラブ（友愛活動）では、お弁当を出すと出てきてくれるのですが、普段外に出ない人を引っ張り出したいと考えています。個人の趣味が合

うと新規の加入につながっています。2番目の小地域ネットワーク（小ネット）の方では、地域の方から中学生までは、ここに住んでいると、顔合わす機会があるが、高校生から75歳までの住民は外に出ることがなかったら顔を合わす機会がないということと、子どもが外で遊んでいる姿を見ないため、子どもが遊べるセンターを作ってほしいです。民生委員からは、高齢者の世代や子育ての世代で、訪問しても詐欺などの問題意識から警戒されることが、多く訪問することが難しいということです。町ボランティア（町ボ連）の方では、先ほどからたくさん出ていますが、外国人の在住ということで、外国人の支援をしたいが、どこに外国人が住んでいるのか、把握しきれないということでした。その下の【団体間の連携と周知に関する課題】ですが、小地域ネットワーク（小ネット）では、回覧などお知らせなどを工夫はしているが、何をしてる団体が長年やってもわかってもらえず、地域団体として連携していくことが活動の周知になるのかという話がありました。町ボランティア（町ボ連）の方では、自分たちの活動を周知するためにSNSの活用をし始めているが、そこにSNSの使い方がわからなく、回っていきたいという声もありました。3ページ目【活動の維持・活性化に向けた工夫と検討事項】ですが、シルバークラブ（友愛活動）では、イベントの規模を縮小することで、活動が存続できるようにしています。小地域ネットワーク（小ネット）では、子ども会が徐々に消滅しているため、子どもが参加できるイベントや活動を増やそうとしています。民生委員では、時代や社会に合わせて柔軟に活動内容の見直しを行っていき、活動者が少しでも長く活動を続けることができるように工夫していきます。町ボランティア（町ボ連）では、活動を知ってもらえるイベントや勉強会などを通して、上牧町が活性化するように広めていきたいという声がありました。報告は以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。関連団体ということで、シルバークラブ、小地域ネットワーク、民生委員、町ボランティアの方、皆さんの方に聞いたということです。いかがでしょうか。何か質問やご意見があれば、いただきたいと思います。

西川委員：私は小地域のクラブにおりますので、その関係だけ申し上げます。伊藤さん、植村さんのおかげで地域のネットワークを、楽しくさせてもらっています。去年から比べると14地区から16地区に増え、増えた原因は何かというと、伊藤さんが16の地域の定例会というものが毎月あるのですが、夜でも朝からでも必ず誰か来てくれます。私どもの定例会で16地区集まるのですが、みんなそれぞれの地区の代表者が、発表するのですが、そのフォローを必ずされるのです。そのフォローがなぜできるかというと、自分もそこに入って行って、体感しているということなので非常にそれがよいと思います。自治会の関係もシルバークラブの関係も、ネットも一緒になっているのですが、辞める話が出てきて困ったと思っていたのですが、伊藤さんがでかけて行って他のよい事例を申し上げ、逆に一緒にやりましょうという感じで事業をすることになりました。これが本当の総合交流といってよいのではないかと思います。そのような意味で、お世話になっているため、皆さんいろいろな面でフォローしていただきたいと思います。最後に一言、言わせていただきました。ありがとうございます。以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。

植村委員：はい、言うてくださったように一緒に考えてもらうことが、大事だと思うため、ご一緒させ

ていただければと思っています。よろしくお願いいたします。

委員長：そうですね、小ネットをやってくれた地区が増え、仲間が増えていくということがです。横のつながりがある、できるということは、各地区でオリジナルな取り組みもあるでしょうし、先ほど地域の道、特性もありますしすべて同じことするわけではないでしょうが、このようなことをやっている、このようにしているなど聞くこともでき、ヒントをたくさん得ることもでき、一人ではない、頑張っている仲間がいるということが大事です。先ほど、言ってくださったように心強いと思います。いろいろな担い手の話し合う運用の工夫のようなことも、すべてが明るいものばかりということは難しいと悩みながら、そこを検討しようかということをしてきているため、このあたり、ぜひ情報共有をし、そのようなことができる関係などを作っていただければと思います。ありがとうございます。他はいかがですか。シルバークラブの話などありませんか。

小川委員：シルバークラブとしては18地区あるのです。その中で16地区が友愛会として、活動しています。それぞれが似たような活動ですが、共通の問題としては、高齢化、役員をやる人がいないということで、それでも、役員活動か、崩壊していくような状態です。いろいろな行事を運営していますが、そこそこは参加する人は出ていますが、参加している人は固定していて、実際、先程もありましたが引きこもり、そのような人が多いということで、シルバーの中でも参加しないという人がかなり多いです。我々としてはひとつの課題でなるべく出てくるようにいろいろな企画を考えているのですが、出てこない人は出てこない、そう言いながらも新しいクラブ活動をしていると、そういうところに参加する人はいて、両極端なのです。参加する人は、どんどん出て来るし、出てこない人はなかなか企画しても出てこない、そのような感じで、それが一番の悩みです。気になることは、どこかの地域で限界地域化してくることなのですが、シルバークラブでもある一部の地域は、運営することが難しいくらい高齢化している問題などあります。これからも努力してそのようなことのないようにやっていますが限界があるというのが、切実な問題です。以上です。

委員長：シルバークラブの活動で、仲間は少しずつ増えているのですか。

小川委員：新規は、そこそこあるのです。半面、お亡くなりになる、施設に入られるなど、結局、数としてはマイナスです。県労連に対して、毎年、増えていれば表彰していただけるのですが、よその地域は3人増えたというだけでも表彰対象なのです。ところが。上牧町は一部増えたところがあって、全国表彰を受けたこともあるのですが、他はほとんどマイナス傾向です。

委員長：新しい方は増えるが、辞める、亡くなるなど、活動者は少しずつ減っているということです。その中で、どのように運営するのか、小ネットや民生委員の取り組みもそうですが、一緒にやってくれる仲間や、積極的に参加してくれる方と、そうでない方と、もちろん団体だからそのようなことがあると思いますが、よい活動ですから、続けていく方向で工夫はされていますし、いろいろな参加の企画を立てられるということをしてされていますが、このような活動が広がってよいと思います。担い手の話や高齢化の話はどのボランティアグループでも出てくる話で、このあたりの課題はあるのですが、どうしていこうかということを考えていかなければならないと思います。ありがとうございます。今回、4つの団体組織報告しております。小さなボランティアグループも、同じような

課題を抱えているのではないかと思います。個別で、どうしていこうかという話は共通で、上のことを意識しながら検討いただければと思います。ありがとうございます。では4番目のところに行きたいと思います。庁内検討会議の報告ということで、一枚ものの資料があると思います。説明の方、よろしくお願いいたします。

#### ④ 庁内検討会議の報告

事務局：地域福祉庁内検討会議の報告の説明をさせていただきたいと思います。地域生活課題の解決に向けて包括的な相談体制を。強度を測るため、庁内各課による検討会議、第1回目を開催いたしました。会議では、福祉部局やいきいき対策課、健康推進課、こども未来課に加え、企画財政課、その他まちづくり推進課、建設環境課、総務課など、幅広く庁内担当課の職員に参加いただき、地域福祉に係る日頃の各課の対応状況や課題を意見交換させていただきました。今回の会議も、まとめとしましては、この現行の地域福祉計画では、住民の方が、地域で孤立しないよう体制整備を進めてきましたが、複雑化、複合化したケースが増えてくる中、包括的な相談体制を一層進めていかないといけないということで、社会福祉法に基づく重層的支援体制事業の活用を見据えながら、幅広い分野での庁内連携の共同を進め、定期的な話し合いが必要であるとのまとめになりました。こちら資料の裏面の方では、会議で出た意見をまとめております。少し簡単ではございますが、報告でございます。まず、上段の方が福祉部、教育部の意見でございます。課題解決のためには、専門機関、関係機関と連携。近年では、住まい確保につままして難しいケースが増えています。例えば、金銭の自己管理が難しい方、住居へのこだわりが強い方、ペットをたくさん飼われている方などです。発達障がいをお持ちのお子さんをお持ちの方の相談支援、ヤングケアラーへの対応については部門間で連携をする必要があります。養護児童への対応では重篤な虐待のケースも想定されます。生活困窮や両親共に精神疾患を抱える家庭のケースなど、困難事業が増え、また医療ケアを必要とする在宅児童の支援について実際のケースが増えてきています。日頃のケア体制から災害対応に至るまで、課題も多く、情報共有が少ないといった意見がございました。下の部分が、今回新たに参加いただいた事業部の意見でございます。空き家の活用について検討されているが福祉局と連携している部分が多いと感じます。本庁舎、文化センター、保健センターなどそれぞれに常設窓口があるが、フォローが必要な住民に共有できれば、広い住民サービスにつながると感じます。防災対策を進めていく上で、避難行動要支援者にも取り組みについては庁内関係各課だけでなく、幅広い大勢で取り組む必要があります。上牧町主催のイベントでは、誰もが参加できるものにするため、どのような配慮や支援が必要なのか、常日頃からシェアしていく必要があります。イベントの参加や出演など補助が必要な場合の対応など関係各課と意見をいっそうできればと思います。近年、増えている外国籍の方への情報発信について、就労先企業との連携がある場合は対応しやすいが、そうでない場合は、懸念されます。関係課、多岐にわたって現金介入が必要でないかと考えます。ゴミ問題について、分別ができず地域で課題となっていて、近隣住民たちがゴミ屋敷になって心配になったりしているなど、どのような難しいケースもあり、地域福祉の観点からも協力して対応していきたいです。このような意見がございました。また、この地域福祉庁内検討会議につきましては、12月にも第2回を予定しており、今回の計画の施策に反映できればと思います。報告は以上です。

委員長：ありがとうございました。役場の方の庁内の方で社会福祉協議会も入っていただいて情報交換や、会議報告をしていただきました。特にご質問、ご意見がございましたらお願いします。今回が

初めてですか。昨年もやっていましたか。

事務局：現行計画でも、庁内会議をやっていたのですが、福祉部局がメインでさせてもらっていましたが、今回は広く参加を。

委員長：福祉のところは高齢や、障がいもあり、福祉の分野では情報交換は、話しやすいです。私たちの暮らしというのは、いわゆる狭い意味の福祉だけでなく、空き家の話、ごみの話など、いろいろなことが密接に結びついています。そこを横につないでいける機会や関係性ができていればよいのですが、なかなか難しいため、情報交換をして、お互いを知り合うということ、お互いが思っていることを確認し合うということが大事で、私たちの暮らしの縦割りはなかなか切れないため、暮らしのところに近づけるということが大事かと思います。ここでできていることも地域福祉計画の中の施策、柱のテーマで、ぜひ、このあたり事務局でも精査していただければと思います。よろしいでしょうか。ありがとうございます。では、5つ目のところにいきたいと思います。骨子のところ、事務局のほうから説明、お願いしたいと思います。

#### ⑤ 骨子案について

事務局：A3の少し大きな表になります。今回の計画の体系・骨子案ということになります。一番左の方が現行令和7年度までの計画の基本理念、基本目標、施策になっております。中程の少し右側に上牧町の課題ということで、それぞれの基本目標に沿った形でアンケート調査や、地区会などを少し集約させていただき、今の少子高齢化の現状や必要である課題を載せさせていただいております。一番上、地域とのつながりの誰もが気軽に立ち寄れる居場所の確保、2つ目、誰もが気軽に参画できる環境調整をすることが必要。活動の希望者と団体等をつなぐ仕組みづくりが必要。一番下、気軽に相談できる環境整備をすることが必要であり、災害における要介護者への支援体制の充実。また成年後見制度の環境整備が必要という形で載せさせていただきました。一番右側の方。今、事務局案として出させていただいている体系案です。基本理念、基本目標は、前回の計画を少し継承させていただいて、この施策の柱につきましても、今の課題から少し継承を中心にさせていただいて、一番下の3つ目の住み慣れた地域で安心して暮らせる仕組みづくりの部分で少し文言を変えさせていただいて、例えば前回、安心して福祉サービスが利用できる仕組みづくりとしていたものを、文言を変えさせていただいて、住人の困りごとを解決につなげる相談支援体制の充実や、様々な困難を抱える人への支援という文言で案を出させていただいています。また、(4)生活支援体制の充実ということで、今回、高齢者の方の移動や交通のところでさまざまなニーズがございました。少し括弧書きですが、移動支援、生活支援等という形で案を出させていただきました。事前配布時にこちら今回のアンケート調査の結果を踏まえて、大きく4つ、地域のつながりの飛躍化への対応、防災への取り組み、福祉に関する情報発信の充実、社会参加のための高齢者の移動手段的確保などこのようなことのニーズが多かったと感じており、委員の皆さまにはこれらの課題につきましても、関係機関、行政、地域の皆さまが共同して取り組んでいくために、ぜひ計画の中でどのように反映させていくかというところでご意見をいただけたらありがたいと思います。報告は以上です。

委員長；ありがとうございました。横向きの色付き資料ですが、今回の地域福祉計画及び地域福祉活動計画の体系・骨子案ということで事務局からご提示いただきました。左側のところが現行、右側が

今回の第2次ということで、大きく変更があるというわけではないと思います。基本理念など、同じで引きつづきで、基本目標についても枠組みを一緒にしていますが、施策の柱については、今の状況などを含めて修正していき、白抜きになっているところなどは、特に押さえておかなければいけないポイントだと思います。少し柱の枠も変えていただき、今回の議事についてはこの枠組みでいければということでございます。いかがでしょうか。ご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。先程のアンケートも含めて上牧町の課題と書いてあるところがいくつかありますが、ペーリングなども出てきているため、これもどうなのかと思いますが、いかがでしょうか。

山岡委員：書簡じみた話になるかもしれませんが。アンケートで、35頁で福祉に関する情報の提供というところで、年代別によって、多い少ないはあるかと思うんですけど、若手の方はかなり情報が多い。町が発信している情報を基に判断している。町から発信しているものが届いてないようで、必要な情報、確実に知りたい情報にたどり着くというのは難しいなと思っています。正しい情報にたどり着くっていうのが、実際、情報多すぎてたどり着かないことも多いと思うので、特に公式な町の発信は信用できる情報かなと思いますので、ここで何を伝えていくか、結構重要になってくるのかなと思います。そういう意味で情報をどのように届けるのか、考えていかないといけないかなと改めて考えさせられました。答えになってないかもしれませんが、すみません。

委員長：事前にみなさんに資料を見ていただいた時には、四つの柱を含めて、皆さんにご意見をいただきたいとことで、情報発信のこと、アンケートのところ、ホームページとか、広報誌が何を発信するのか。つまりルート認知度は高いということですので。そこで、何を発信するのか。例えば、その人に伝わるような中身で発信しているかどうか。今も常にホームページとか情報を発信されているんですけど、地方情報の仕方だけを発信しとけば OK ということではなくて、ちゃんとキャッチできる、受け止められる、理解が出来る、それが生かされる同じような情報の発信の仕方、そこが活かされるとか、少しご意見いただきたいと思います。インターネットとかもそれなりにアクセスはしているのかなど。昔の学生が社会実習に、事前学習を得ているホームページを見たら全然動いていませんとか、何年前で止まっていますとか、そういうのが時々あって、情報、何が載っているのか、情報が沢山ありすぎて、アクセスしてもたどり着かないですので、構造的な形も含めて、何を情報発信するのか工夫が必要だろうなど。特に、福祉に関する情報は、いわゆる、そのまま出せば全部日本語で難しい漢字で書かれています。言葉についての工夫ですとか、音声でやるとか、いろんなことができます。そのあたり含めて検討お願いします。ありがとうございます。四つの柱のことについて、それも含めてご意見をいただけたらと思います。いかがでしょうか。せっかくお越しいただいたので。

山田委員：4つの項目が提示されているんですけども、感心して見ていたんですが。例えば、アンケートでは、防災で町の方の意識が非常に高いから、というふうに思っているんですが。たぶん意識の新規のつながりが大事で災害対策での意識が大事です。また先ほどの情報発信、どのサイトで発信されているのか普段からやっておかないと、災害の時にどのサイトを見れば災害情報の活用できるか、普段から活用しているというのが非常に大事だと思います。もう一つ。四番目の社会参加のための高齢者の移動手段の確保。その時の避難行動をどういうふうに支援するかということも、多分、普段からこういう体制が出来ている。非常に素晴らしいと思うので見させていただいておりま

した。今週も防災訓練をさせていただきたいと思っています。その時に従来の保健、医療、町営ホームの運営をしていたんです。今回から保健、医療、福祉老人ホームを。福祉は非常に大切、そういう意味で福祉の重要性、普段から災害に強いようにしたい。

委員長：はい、ありがとうございます。この4つってね、スタートをどこにするか、防災の話で言うと、関係性の話、情報のことですか、二番目の見守りに広がって行くところもありますし、一番を軸にしていくと、ひたすらつながりがあるということで救われること、情報の発信が出来る、共有が出来るところで、かなりつながっているということ。アンケートでも、防災と防災対策が高いのと、一方で災害の備えでいくと、特に準備していないが20パーセントと高いのです。つまり、気になっているけど準備していませんと言う人たちがいる。ということで、どんな自治体も災害は起きてほしくないですし、起きないだろうとどこかで思っている。準備をしていない、となると防災訓練の啓発もしている。意識しておくということが大事。情報発信を含めて大事じゃないかなと思います。ありがとうございます。いかがでしょうか。移動の話もご意見いただけたらと思います。情報発信だったりしますけど、いかがでしょうか。

竹原委員：さきほど、交通に関するアンケートを取ってくださって、ぜひそれを聞きたい。

事務局（まちづくり推進課）：滝本です。いま、上牧町において地域公共の交通協議会っていうのを設立しようと考えておまして、今、上牧町においては、ららぽーとのバス、地域のコミュニティバス、上牧町に3台走らせているのですが、高齢者の方が先導して、交通コミュニティバスでも、ちょっとしんどいと言うご意見もありながら、新しい地域公共交通とか、既存の地域公共交通についてどうしたらいいのか検討する協議会を立ち上げさせていただきたいと考えています。この協議会が、今、アンケート調査も同時に実施を検討しております。上牧町の3000人に対してアンケート調査をしたい。これを今年度補助予算で予算を取っておりますので、委託業者が決まれば実施したい。あと、協議会の方ですが、令和8年2月ごろ、1回目をしたいと考えております。メンバーとしては、上牧町や、ららぽーとさん、タクシーの業者さん、また、運転手の労働組合さん、奈良県の職員さん、国の職員さん、町議会、社会福祉協議会、住民の代表として自治連合会さん、商工会さん、シルバークラブさん等が参加して、上牧町で一番ふさわしい交通機関がどういうものか、今年の2月から来年一年かけて協議したいと思います。今、いろいろなご意見が出ていて、アンケート調査でも地域公共交通が不便であると、答えられている方が2種類いると思うんです。高齢で買い物に行けない、駅へのアクセスが悪い。若い人で住んでいるが、そのバスのアクセスが悪い。上牧町においては上牧町役場のバス停から多い時13分で行ける距離。王寺駅には17分で行けるけれども、それでも不便と考えられている住民の方がいらっしゃいます。たとえば、地域公共交通機関で来た場合とかは、地域は良くなるけど、例えば王寺駅へのアクセス、奈良交通のバスがアクセス悪くなって利用者が減ったら、奈良交通のかたが、この路線は減便にしようとか、そういうことを考える可能性がある、そのバランスは難しいなと思いますので、タクシー業界さんとか、今、民業圧迫、それ難しい問題になってきますので、住民、また利害関係者の皆さんが集りながら、上牧町にとって一番良い交通とは、どういうものかと言うのを集まりながら、一年かけて検討したいと思っています。ありがとうございます。

委員長：はい、ありがとうございます。協議する場が必要だと思います。まずそこを入り口として検討

していただければと思います。バスを減らせと言って解決する話でもなく、地域行政が出せばバス会社が赤字になる。タクシー会社も大変。というのがあるので、作れるまで行くけど、誰も利用しないということもあるし、誰も使わないと結局なくなってしまいます。誰かに任せてやってもらうやり方をやると失敗する。役場がやっておいてくれるとなる。自分たちがどう使ったらいいのかという話をしないままやると失敗する。整理しておかないと、使わないまま赤字になるので、それを含めて検討するのはどうかと。この計画にそのままあててくことは無いと思いますが。社会参加できるという、買物という話もありました。病院という話もありますが、いろんなものに参加して行くためのボランティア活動に行きたい。この会に行きたい。というのも、なかなか難しくなっているようで、そのことも含めて、進めていただけたら、地域活動の参加、できるのではないかと思います。ありがとうございます。他に、あと少し、いかがでしょうか。少し気になることがありましたら、事務局の方にお伝えいただきたい。次回以降。柱のところ、肉付けされていたところを含めて、ご意見いただけたらと思います。その他のところ。事務局の方いかがでしょうか。

#### ⑥ その他

事務局：そうしましたら今後のスケジュールでございますが、1月に第3回の策定委員会を開催させていただきたいと思っております。その時に示させてもらった素案、ご意見を伺いたいと思っております。日程につきましては、決まり次第、ご案内させていただきたいと思っております。

委員長：全体のスケジュール1月にもう一度、3回目の会議があるということと。今年度の3月には完成を目指すということですね。

事務局：2月にはパブリックコメント、その後3月で完成したいと思っております。長時間にわたりありがとうございました

委員長：はいわかりました。ありがとうございます。素材が集まってきました。あとは中身の話です。それを作っていただけたらと思います。また、ご意見をいただきたいと思っております。審議の方も終わりになりましたので。第2回の会議を終わらせていただきたいと思っております。ありがとうございました。

### 3 閉会

事務局：皆さん、長時間にわたりありがとうございました。お気をつけてお帰りください。